

オリジナルティーチングプラン



オリジナルティーチングプラン

「楽しく考えるための算数教具の活用」の実践

守谷市立高野小学校 東郷 佳子

1 はじめに

本校は、平成22年度・23年度に、守谷市の研究委嘱を受け、「できる・わかる喜びを味わい、意欲的に考え続ける児童を育てる指導法の追求」という研究テーマで、算数科の研究に取り組んできた。そのテーマを受け、算数的思考力や表現力を高めるために、楽しく考える算数教具を活用したいと考えた。

2 楽しく考える場を作る，オリジナルティーチングプランの3種類の教具

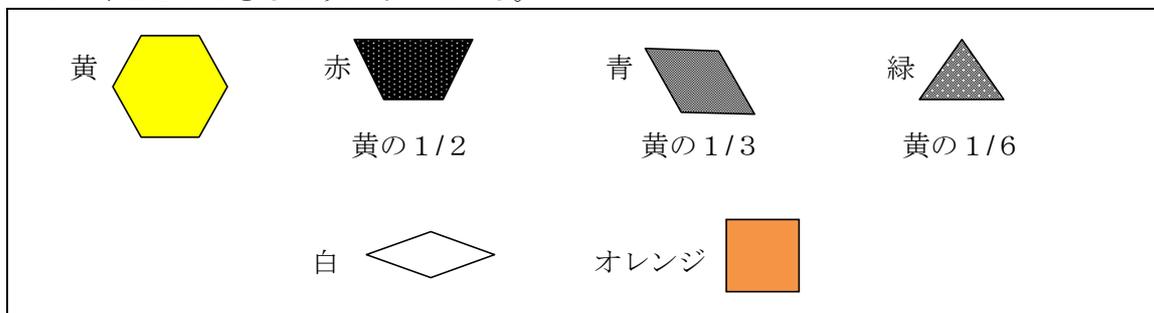
教 具	活用のねらい	単 元 例
パターンブロック	豊かな図形感覚の育成	1年「いろいろなかたち」 2年「三角形と四角形」 3年「分数」 5年「四角形と三角形の面積」
ジャマイカ	計算力と式表現の力の向上	3年「かけ算」「わり算」 4年「式と計算」 5・6年 随時
ジオボード	豊かな図形感覚の育成	2年「三角形と四角形」 4年「面積」

3 教具を活用した実践と考察

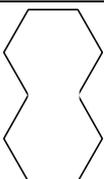
(1) パターンブロックを活用した授業実践 1年「いろいろなかたち」

- 目標
 - ・パターンブロックの組み合わせ方に関心を持ち、工夫して形作りをすることができる。
- 教具 パターンブロックについて

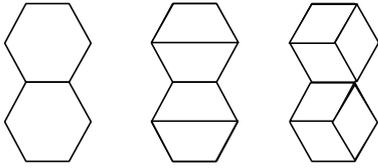
下のような6種類のブロックがある。どのブロックも1辺の長さが同じで、隙間なく敷き詰めていくことができるようになっている。



○ 学習の展開

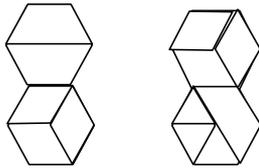
学習内容・活動	教師の支援・評価
<p>1 本時の学習問題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>パターンブロックでつくろう。 このかたちは、なんまいでできるかな。</p>  </div> <p>・ 2まい ・ 4まい ・ 6まい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6種類のパターンブロックのうち、黄、赤、青、緑の4種類のブロックを、1枚ずつ黒板の端に張っておく。 ・ 図を提示して、問題を投げかけ、形を作るのに使う枚数を予想させる。 ・ 一人ずつではなく一斉に枚数を言わせ、ずれを引き出す。 <p>☆反応のずれをもとに、どのようなブロックの並べ方</p>

2 各自でいろいろな組み合わせ方を考え、ワークシートの上に並べる。



2まい (黄) 4まい (赤) 6まい (青)

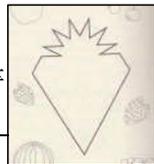
3 どんな枚数の並べ方があるか話し合う。



- あれっ？5まいもあるんだ！
- 色の違う形を組み合わせれば，7まいでもできるよ！
- 赤が2まいで黄色になるよ！
- 青と緑で赤の大きさになるよ！
- もっと作ってみたいな。

4 パターンブロックを使って，自分で形を作って遊んだり，タスクカードを使って形を作ったりする。

• タスクカードの例



5 本時の感想をノートに書

があるのかという関心を引き出していく。

- 作業の様子や児童のつぶやきを見取って，友達がいろいろな発見をしている様子を伝え，関心を高める。

㊦組み合わせ方を工夫し，何通りかの並べ方で形を作っている。

(ワークシート，つぶやき：考え方)

- 児童の発表の順序に関係なく，黒板上に2枚の場合，3枚の場合，4枚，5枚，…と順序良く並んで見えるように位置を工夫しながら板書する。

☆色の違うブロックの組み合わせで何通りもの並べ方ができることを発見する楽しさを味わわせたい。

㊦色の違うブロックの関係を考えたり，黒板にない組み合わせ方を見つけたりしようとしている。

(発言，あいづち：感・意・態)

☆自分の好きな形作りをするか，タスクカードを使って形作りをするかは，各自で選んで行わせる。形作りの楽しさを体験させたい。

- 6種類のパターンブロックを自由に使う。

- パターンブロックを使った形作りの感想を自分の言葉でまとめさせたい。

(2) 考察

本時の学習では、「雪だるまの形を作るのに何枚のブロックを使うか」という問題に対し，多くの児童が自分で何通りもの組み合わせ方を発見し，友達の考えた組み合わせ方についても関心をもち一緒に考えていくことができた。発言の仕方や話し合いの態度については課題も残ったが，ブロックの組み合わせ方に関心をもち，工夫して形作りに取り組むというねらいは達成には迫ることができたと考えられる。これは，問題の面白さや教具自体の楽しさによるところが大きい。教具を活用した算数的活動は，学習への関心を高め，算数的思考力や表現力を高めるのに有効であったと考えられる。

4 今後の課題

児童が楽しく活動に取り組むことができる教具を活用した算数的活動が，思考力や表現力を高めるのに有効であることが再確認できた。しかし，教具の活用の仕方やよさについて，まだ十分に共通理解を図ることができていないため，活用の場面が限られている。

今後は，より多くの場で教具を活用し，楽しく学びながら算数的思考力や表現力を高められるようにしていきたい。

確かな学力の定着を目指した学習支援 ～オープンルーム（算数）、SUNサнтаイムの実施～

守谷市立守谷小学校 石塚 行男

1 はじめに

本校では、確かな学力の定着をめざして学習支援を行っている。「オープンルーム」と「SUNサнтаイム」の2つである。「オープンルーム」は4，5年生の希望者を対象に算数の個別支援を行うものである。人数をある程度絞ることで、きめ細かな指導が出来るようになっている。また、「SUNサнтаイム」は、学習ボランティアの「まるつけ先生」にお手伝いをいただき、計算力と学習意欲の向上を図るものである。

2 実践

(1) オープンルーム

○ねらい

あそびの時間を利用し、4，5年生の希望者を対象に3年生までの計算の復習をすることにより基礎基本の定着を図る。

○内 容

四則計算の復習（2，3年生の及び4年生の内容の一部）プリント，テスト

対象	4年生の希望者	5年生の希望者
場所	1階少人数教室	1階家庭科室
時間	第2，第4水曜日の遊びの時間	
担当	◎茂呂・大熊・佐々木	◎田谷・高原・教務主任

○実施の流れ

4月18日申込書配布（4，5，6年生全員）

4月22日申込書回収

4月24日～準備開始

- ・名簿作成・ファイル購入，集金
- ・教材準備・印刷

5月～オープンルーム実施

学期末に個人の学習ファイルを返却

- ・最終日に振り返りカード記入。
- ・担当者がコメント記入。
- ・学級担任を通して保護者にコメントをもらう。
- ・学期末に回収，学校で保管する。

OR 実施後，必要に応じ，担当者の打ち合わせをする。

実施日	内 容	実施日	内 容
5月第2週	テスト	11月	わりざん
5月第4週	たしざん・かけざん	12月	わりざん
6月	ひきざん・わりざん	1月	わりざん
7月	テスト	2月	単位の換算
9月	かけざん	3月	乗除算テスト
10月	かけざん		



(2) SUNサнтаイム

○ねらい

学習ボランティアの協力のもと、習熟度に応じた指導を行うことで児童の計算力及び学習意欲の向上を図る。

○内 容

算数の基礎学力向上を目指した繰り返し学習の時間とする。担任教師と担任外の全教師が支援に当たる。保護者から 学習ボランティア「まるつけ先生」を募集し、プリントの採点などの支援に協力をいただく。

対 象 全児童

場 所 各教室

時 間 金曜日のあそびの時間の20分間

担 当 全職員，学習ボランティア「まるつけ先生」



○実施までの流れ

5月 6日 保護者ボランティアの募集

6月 2日 保護者ボランティア決定

6月10日 第1回「SUNサンタイム」開始

○実施計画

回	月	日	曜日	時間
1	6月	10日	金	13:25～13:45
2		17日	金	13:25～13:45
3	7月	8日	金	13:25～13:45
4	9月	30日	金	13:25～13:45
5	10月	7日	金	13:25～13:45
6	11月	11日	金	13:25～13:45
7		25日	金	13:25～13:45
8	12月	9日	金	13:25～13:45
9	1月	13日	金	13:25～13:45
10		27日	金	13:25～13:45
11	2月	10日	金	13:25～13:45
12		17日	金	13:25～13:45
13	3月	9日	金	13:25～13:45



3 成果

- ・普段の授業で不足しがちな反復学習を十分に行うことができ、算数の基礎学力の向上が見られた。
- ・学習ボランティアの「まるつけ先生」に丸を付けていただくことで学習意欲が高まり、課題に集中して取り組むことができた。

4 課題

- ・「オープンルーム」については、担当職員の数の関係で、希望者全員を受け入れることが出来なかった。全学年を対象に行うことが出来ないため、どの学年を対象にし、どの程度の数にするのが効果的か、検討する必要がある。また、今年度は、日課表や学校行事の関係で予定通りに実施できないことがあった。来年度は、より効果的に実施できるよう日課表や学校行事等を見直していきたい。
- ・「SUNサンタイム」については、学級数の増加に伴い、学習ボランティアが不足している。学習ボランティアの確保が課題となっている。

オリジナルティーチングプラン

確かな学力を身につけさせるための小中一貫教育の在り方

— 家庭学習の手引きを活用した小中連携事業を通して —

守谷市立守谷中学校 荒井 弘勝

1 はじめに

平成 22 年度に学習状況調査を実施した結果、本校の生徒の特徴として、1 年生 10.5%，2 年生 24.6%，3 年生 25.2%と、学年が上がるにつれ宿題や塾以外での家庭学習を行わない傾向がうかがえた。さらに、平日の家庭学習時間を 2 時間以上取り組んでいる生徒の全校平均は 28.3%であった。これは、勉強する子としない子との二極化の傾向があると考えられる。平日の家庭学習時間と成績との相関関係を見ると、成績が上位になるほど家庭学習を「毎日行う。」と答えている割合が高い。宿題や塾以外にも、家庭で自ら学ぶ習慣を身につけることが学力向上には大切であり、家庭学習の定着のために『家庭学習のてびき』を全校的な取組みとして進め、学習方法を具体的に示し、家庭学習の時間を確保するとともに、家庭での学びを授業に生かすことを大切にしていきたいと考えた。



そこで、家庭学習の在り方を学校全体で統一を図り、具体的学習方法としてまとめる「守谷中学校家庭学習のてびき」を作成した。家庭学習を習慣づけることで学力の向上について三年間を見通して実践することとした。家庭学習の心構え、学習の基本的なルール、生活のリズムの在り方、各教科の授業や家庭での具体的な学習方法を示すことにより、自分から学ぼうという意識を高める内容を心がけた。家庭での学びが学校の授業に生かされるようにすることを大切にしたい。

さらに、校区の小学校とも連携した取り組みとして推進していくことが、学力の向上には必要不可欠である。長期的な視点に立ち、9 カ年を通して学習習慣を身につけさせる具体的な手立てとして家庭学習の手引きを活用していくこととした。

2 実践

(1) 守谷中学校家庭学習のてびきの編集

ア 学校改善プランを生かした家庭学習のてびきの編集

てびきの内容の編集は、校内での学習指導に活用されなければならないという観点から、教科部会において県学力診断テストの分析を行った。分析結果から、課題を把握し課題解決に向けた具体的な方策について教科部を中心に検討会議をもった。分析結果は学校独自の分析シートにまとめ、校内研修において全職員に対して共通理解を図ることで各学年の本校の課題を共有した。ここで分析された結果をもとに本年度早々に学校改善プランとしてまとめ、生徒の実態や今後付けていかなければならない力や授業改善の方向性を示した。この分析をもとに、校内研修部及び教務部が中心となって、「守谷中学校家庭学習のてびき」として一つの冊子としてまとめた。その後 5 回にわたって改訂が行われたが、中心には学校改善プランを据えて編集する点が各部会での共通理解事項として確認された。

イ 家庭学習のてびき活用率向上のための手立て

家庭学習のてびきは、生徒の実態調査や学校改善プラン、実力テスト等の分析をもとに、各教科部会の検討を加え、改訂 3 版で、平成 22 年 9 月に白黒印刷板として、全生徒に配布した。その活用方法について、一度は目を通すものの継続的に有効活用されているか疑問であるとの課題が残った。そこで、家庭学習のてびきの有効な活用についてのアイデアを出すための校内研修を実施した。研修では多くのアイデアが出されたが、最終的に①保護者の意見、生徒の振り返り、教員のアドバイスが書き込める項目やページを設定する。②てびきの活用について、教科指導などで本人への指導を継続し、保護者との連携を密にする。③てびきのクオリティを高め、内容を随時更新、加除できるようファイリングシステムにする。④てびきの内容を意識づけるため、教室やモニターへ掲示する。という 4 つのアイデアに要約することができた。

ウ 小中連携で取り組む家庭学習のてびき

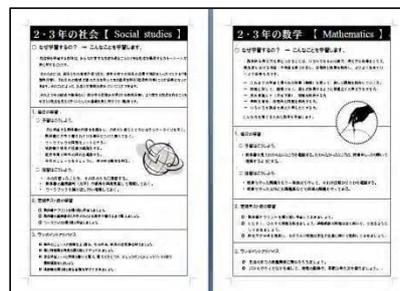
家庭学習のてびきを編集するに当たって、校区小学校との連携を図りながら家庭学習習慣の定着を図るという考え方を中心に据えた。校区教務主任が連携し、定期的に家庭学習の在り方についての共通理解を進めるための話し合いをもった。しかし、限られた時間内で家庭学習の在り方を共有する事は難しかった。そこで、校区小中学校の教務主任が、家庭学習のてびきの内容について検討し合う、守谷中校区小中連携会議を設定した。この会議を通して、小学校と中学校で家

庭学習の在り方など共通して指導すべき内容について共有することができた。

(2) 守谷中学校家庭学習の手引きの活用

ア 「守谷中学校家庭学習のてびき」の配付

家庭学習のてびきはページを開いた時に見やすくするため、強調したいページはカラー印刷とし、中学校在籍中はてびきを何度も閲覧できるよう、3年間の保存にも十分耐えるだけの紙質と製本を施した。有効活用のための手立てを生かすべく、定期テスト保護者連絡票を組み入れ、保護者にもてびきが閲覧できるようにした。また、4月には自分の学習と生活の目標を設定し、3月には1年間の成果を振り返ることのできるコーナーを設け、折に触れ家庭学習のてびきを活用できるように工夫した。内容検討を経て平成23年6月に最終版として印刷製本し、全生徒、全保護者を対象に守谷中家庭学習のてびきを配付した。



イ 家庭学習のてびきの活用率

家庭学習のてびきの内容にそって、学校での学習や家庭学習が実施されているかを調査するため、定期的に学習状況調査を実施した。その中で家庭学習のてびきの活用率について調査した。その結果、学校全体の活用率は次の通りである。6月は配付してすぐの調査であったため活用率は伸び悩んだ、7月調査は定期テスト前であり、各学年でも活用を呼びかけたため活用率は向上したが、一度確認してしまうとその後の活用率は下がってきている。活用できていないと回答した生徒も、30%近くいた。有効活用に関しては大きな課題を残した。

■ 家庭学習のてびきを有効に活用している生徒の率			
6月調査	7月調査	9月調査	11月調査
23.5%	44.2%	32.3%	30.7%

3 考察

(1) 守谷中学校家庭学習のてびきの編集について

家庭学習のてびきの編集に、学校改善プランを有効に活用し、本校生徒の課題解決に向けた内容にまとめ、家庭学習が学校での授業に生かせるよう、生徒に具体的に示すことができた。さらに職員の学力向上に対する意識もてびき編集を通して高まってきたように感じる。校内研修においてもてびきの編集のみならず、その後の有効活用方法について共通理解を図ることができた。さらに重要なのが、学力の向上を小中合わせて義務教委育9カ年の見通しをもって取り組む点が確認できたことである。これは、中学校独自では成し得ないことであり、小中連携を学力向上といった観点から推進する大変良いきっかけになった。

(2) 守谷中学校家庭学習の手引きの活用について

てびきを編集するからには有効活用してもらうことが重要であるといった観点から、実際に印刷製本に至るまで、様々な考えが出された。てびきの編集に伴い、校内研修部や教科部が中心となって意見交換できた点は成果の一つとしてあげられる。そこで出されたアイデアを、てびきに盛り込むことによって、学習の在り方を振り返る事ができたと考える。てびきの内容に書かれていることが正しく実施出来ているかを確認するための学習状況調査や、生活状況調査を定期的実施した。教務部が考察を加え生徒の実態を詳しく分析し、各学年に共通理解を図ることができた点は、生徒理解を深めるよい手立てとなった。その中で、てびきの活用率調査も実施した。思うように活用率が伸びなかったことは、学力向上の観点から我々の新たな課題を発見することにつながった。

4 課題

家庭学習のてびきの編集は、当然、生徒の学力向上のために企画、編集されたものである。しかし、今回てびきを作成して最も感じたことは、全校的な取り組みとして、家庭学習のてびきの編集を実施することで、教科部会の話し合いが活発になり、我々職員の学力向上に関する意識の高まりが見られた点である。てびきの編集を柱に、本校の課題を把握することができたばかりでなく、学校改善プランが学習指導に有効に活用できたと考えられる。しかし、定期的実施した、生徒の実態を把握するための各調査結果については、満足のいくものばかりではなく、取り組みを通して下がってしまった数値もあった。しかし、事実のひとつひとつを謙虚に受け止め、あきらめずにくり返し、くり返し、ていねいに具体的施策について推進していきたい。家庭学習のてびきの当面の課題は、有効活用されるシステムをさらに検討しなければならないということだ。本校の実態にあった、授業に活用できる学習の在り方をまとめたものであるから活用率の向上は重要である。現在、有効活用率は30%前後であるが、今後、学級活動などで具体的にてびきを活用した学習を具体的に導入するなど、有効活用率を70%以上にしていきたい。そして、家庭学習のてびきの内容を校区小学校と共有し、学力向上での連携を強化することで、9年間で確かな学力を定着させるような取り組みを推進していきたい。

守谷市オリジナルティーチングプラン

大学生学習ボランティアによる学習相談

守谷市立愛宕中学校 内田 有一

1 ねらい

教職志望の大学生に学習ボランティアを依頼する。生徒を対象に学習相談を行い、生徒の自己肯定感（self-esteem）を高める。

2 なぜ大学生なのか

大学生は、中学生にとって利害関係のない存在である。友達という横でもなく、教師という縦でもない“斜めの関係”である。学習が苦手な生徒には、この斜めの関係は相談しやすく、学習の悩みを率直に打ち明けられる利点がある。学習が苦手な生徒にとって最も必要なことは、自己肯定感（self-esteem）である。

3 何を相談させるのか

・教科書や問題集から理解したい部分を生徒自ら決めさせる。（課題の自己決定）

その課題解決の方法を相談させる。

・問題を解けることだけが目的ではない。斜めの関係から学習の取り組みを肯定されることで、自分に自信を持てることをねらう。学習ボランティアには、「教えてほめる」ことを依頼する。

4 学習ボランティア協力者

櫻井宏美氏（川村学園4年生：英語）

筑波大学「FreeEducation」（代表：松本紘一郎氏）

5 実施時期

5月11日（水） 16：10～17：10

5月16日（月） 15：20～16：20

7月 7日（木） 15：00～16：00

7月 8日（金） 15：00～16：00

8月 8日（月）～12日（金） 15：00～16：00

8月22日（月）～24日（水） 15：00～16：00

12月26日（月） 11：00～12：00 13：00～14：00

12月27日（火） 11：00～12：00 13：00～14：00

12月28日（水） 11：00～12：00 **進路懇談 13：00～14：00**

1月 6日（金） 11：00～12：00

6 受講生徒

希望者および教師による推薦を受けた生徒が受講した。保護者には募集を文書にて知らせた。

7 場所 図書室

8 実践の概要

(1) 学習相談

最初はやや臆していた生徒が多かったが、すぐに質問をして学習を進めるようになった。特に学習が苦手な生徒にとって、大学生は親しみやすいため、気軽に相談できる様子が見えかけた。

大学生には自己肯定感が高まるよう指導を依頼してあったので、よくほめる姿が見られた。終了後、学習が苦手な生徒に聞いたところでは、日頃指導を受ける教師と異なる人からほめられるのは、大変うれしかったとの答えを得た。

この学習相談は、長期休業中の教師による学習相談と平行して実施しており、相当数の生徒が集団で学習することで学習に向かう雰囲気をつくられた。本年度の学力診断テストの成績は昨年度に比べ全教科が向上した。そのひとつの要因として学習相談の充実があると考えている。

学習意欲が旺盛な生徒の中には、大学における学問の話に興味を持ち、質問する姿が見られた。そうした中から生まれたのが冬休みの進路懇談「中学生×大学生 TalkSession」である

(2) 進路懇談「中学生×大学生 TalkSession」

キャリア学習を大学生に依頼したところ、高い関心を示し、実施に至った。生徒たちは漠然と大学に行きたいと言うが、大学は何をすることであるかは、十分理解していない。

大学生には、中学時代から現在に至るまでの道のり、すなわち自伝を語っていただくようお願いした。

当日は、保護者参観の中、懇談が行われた。開始から話が盛り上がり、1時間のトークセッションは成功することができた。終了後、ワークシートにセッションを終えた後の自分の考えをまとめて提出した。後日、大学生のコメントが書かれたワークシートが送られてきた。生徒や保護者からは大変好評で、来年度も続けて欲しいとの要望をいただいた。

進路懇談の様子



学習相談の様子



マナーアップ推進事業



守谷しぐさ

守谷市立大井沢小学校 担当 間根山 けい子

- 1 主題 江戸しぐさを受けて、守谷しぐさ（大井沢しぐさ）を身につけることで豊かな心を育み、あらゆる場面において自ら考え、実践できる児童を育成する。

2 推進計画

- (1) 道徳の授業の実践
- (2) 児童朝会での江戸しぐさの劇発表
- (3) 大井沢しぐさ 本作成
- (4) 大井沢しぐさ 川柳募集、のぼり作成

3 実践

(1) 道徳の授業の実践

① 高学年の実践事例

資料「江戸しぐさ」を使って道徳の授業を実施した。傘かしげや腰引きなど、演技を通してその時の気持ちを理解し、話し合いを深めていった。後半は「大井沢しぐさ」に置き換えてみると自分は何のようなことができるのかを考え、具体的な場面での実践化に結びつけた。その後、道徳の授業を生かし、児童朝会における「江戸しぐさ」の劇発表へとつなげていった。



② 低学年の実践事例

低・中学年では「江戸しぐさ」をまねて作った「大井沢しぐさ」の本をもとに、道徳の授業を実施した。書かれている内容を役割演技することで、その時の相手の気持ちなどを感じ取ることができた。まとめでは、学校生活の中での具体的な場面を取り上げ、実践化につなげていった。



(2) 児童朝会での江戸しぐさの劇発表

運営委員会が中心となって劇を披露した。「江戸しぐさとはどういうものなのか、共通理解を図る。」ことをねらいとして、発表を行った。

児童朝会 劇台本「江戸しぐさってなあに」

その1 (かさかしげ)

「雨降りの日は、かさをさして歩きます。せまい道でかさをさして歩いていると、かさがぶつかりそうになったり、雨のしずくが相手にかかったりして、大変です。」

○お互いが通りすぎるとき、お互いの傘を横にかたむけて、相手にかさの雨しずくがかからないようにします。

その2 (こちらこそ、うっかりしまして)

「人がたくさん通っている道で、人に足を踏まれたり、ぶつかってこられたらどうしますか。」

○「ごめんなさい。」とあやまるのは当然ですが、ぶつかって来られた人や足を踏まれた人も、怒ったりせず、「こちらこそ、うっかりしまして。」といいます。

その3 (感謝の目つき)

「学校に行く小学生が歩いてきました。車がたくさん通るので、小学生たちは、なかなか道路を横断することができません。すると、一台の車が止まってくれました。」

○親切にしてくれた運転手さんに、「ありがとう。」と言うだけではなく、軽く会釈をしたりおじぎをしたり、にっこりとほほえんだりします。

実際に2つのパターンを見せ、どちらが江戸しぐさなのか問いかけながら進めた。低学年にも分かるように具体物を使用したことで分かりやすい劇となったようである。



傘かしげ



こちらこそ、うっかりしまして



感謝の目つき

(3) 大井沢しぐさ 本作成

大井沢独自のしぐさについて考えた。まずは教師サイドから4つの事例について考え、全クラスで本を使って読み合わせを行った。低学年では一つ一つの事例について実際に役割演技をしながら進めた。高学年においては自分たちで「大井沢しぐさ」の事例について考えているところである。来年度はいくつかの事例を追加し、さらに広めていきたいと考える。



(4) 大井沢しぐさ 川柳募集、のぼり作成

大井沢川柳（大井沢しぐさ）のテーマで募集したところ心温まるたくさんの作品が応募された。その中から特選4点、入選18点が選ばれた。この作品をのぼりに書き、校舎内・外に設置し、大井沢しぐさを広めていきたい。



特選	○あいさつは 街のみんなの エネルギー	○いつの日か 大井沢いっぱい おもいやり
	○やさしさが いっぱいつまった 大井沢	○大井沢 学校じゅうが 思いやり

入選	○ありがとう その一言だけで ぼっかぼか	○目の前の 相手を思って 傘かしげ
	○この街の みんなの笑顔 しぐさから	○すれちがい あいさつしあう 大井沢
	○ありがとう 言葉で心が あたたかい	○せまい道 自然にできる 横歩き
	○靴のかかと みんなそろろうと 気持ちいい	○元気よく 地域の人へ あいさつだ
	○しぐさでね 心がぼっかり あたたまる	○みんなでね 大井沢っ子に になりたい
	○サンダルを きれいにそろえ いいきもち	○そろえよう 靴のかかとを ていねいに
	○江戸しぐさ 大井沢にも 伝わった	○大井沢 心をつなぐ あいさつで
	○江戸しぐさ 気持ちをもって 取り組もう	○わからない ことがあったら 助け合う
	○ゆずりあい 狭い場所でも 腰うかせ	

4 成果と今後の課題

(1) 成果

「江戸しぐさ」とはどのようなことなのかを児童朝会で劇を行ったことで、全児童が理解することができ、「大井沢しぐさ」について考える土台となった。さらに、全クラスで道徳の時間に取り組んだことで、大井沢しぐさを意識する場面が随所で見られるようになってきた。また、普段の生活の中でも思いやりが芽生えてきた。そして、道徳日より「こぶし」でも大井沢しぐさを取り上げ、家庭に発信することができた。

(2) 課題

「大井沢しぐさ」の本については高学年が考えた事例を追加し、いろいろな場面で生かしていきたい。そして、子どもたちがいろいろな場面で大井沢しぐさを意識し、実践化を図りたい。また、のぼりについての効果的な活用について検討し、校内だけではなく、校外での行動にも広げていきたい。

**指導室事業実績
委嘱関連一覧
教育論文応募一覧**



平成23年度指導室事業実績

訪問に関すること

1 計画訪問

学校の課題及び市学校教育への取組み状況の把握と援助・指導

(※ 研究指定校にあつては指定校訪問を兼ねる) < 県南計画訪問同行 >

大井沢小学校	9月30日(金)	7月8日(金)	(日本語指導訪問)
大野小学校	10月19日(水)		
高野小学校	5月17日(火)		
守谷小学校	5月27日(金)		
黒内小学校	6月7日(火)		
御所ヶ丘小学校	6月28日(火)		
郷州小学校	11月25日(金)		
松前台小学校	10月14日(金)		
松ヶ丘小学校	10月7日(金)		
守谷中学校	9月21日(水)		
愛宕中学校	10月31日(月)		
御所ヶ丘中学校	11月18日(水)	9月29日(木)	(特別支援集合指導)
		10月21日(金)	(生徒指導訪問)
けやき台中学校	6月13日(月)	6月16日(木)	(不登校対策訪問)

2 指定校訪問

研究指定校への支援・助言

2年次	高野小学校	10月20日(火)	研究発表会
		5月23日(月),	7月4日(月)
	守谷小学校	11月22日(金),	1月25日(水)
1年次	黒内小学校	10月4日(火),	2月3日(金)
	けやき台中学校	5月9日(月),	11月9日(水)
		12月14日(水)	

3 教育委員会合同訪問

各校の経営の概要や課題及び要望等の把握

5月20日(金)	第1回	大井沢小, 松前台小, 御所ヶ丘中
5月25日(水)	第2回	御所ヶ丘小, 守谷中
6月24日(金)	第3回	高野小, 黒内小
7月5日(火)	第4回	大野小, 松ヶ丘小, 愛宕中
7月6日(水)	第5回	郷州小, 守谷小, けやき台中

4 要請訪問

各学校や教育研究会研究部の要請に応じて行う援助・指導

校内研修	7月11日(金)	御所ヶ丘小学校
市教育研究会生徒指導研究部研修	8月3日(木)	けやき台中学校
市教育研究会教育課程研究部研修	8月4日(木)	守谷中学校
校内研修	8月8日(月)	大井沢小学校

委員会活動に関すること

5 外国語活動推進委員会

外国語活動の積極的推進とALT活用に関する研究協議及び研修

5月12日(木)	第1回	今年度の活動方針確認
7月7日(木)	第2回	小学校授業研究(郷州小学校)
10月18日(火)	第3回	中学校授業研究(御所ヶ丘中学校)
2月2日(木)	第4回	小学校授業研究(松ヶ丘小学校)

6 情報教育推進委員会

学校情報教育推進計画の策定及び情報教育の推進

5月25日(水)	第1回	今年度の活動計画
11月21日(月)	第2回	授業研究会(大井沢小 佐藤先生)
2月14日(火)	第3回	今年度のまとめと次年度への課題

7 社会科副読本編集委員会

社会科副読本の活用に関する研修

6月14日(火)	第1回	今年度の活動計画
8月3日(水)	第2回	副読本の改訂作業
11月9日(水)	第3回	副読本の改訂作業
1月31日(火)	第4回	初稿の構成, 今年度のまとめと次年度の課題

8 生徒指導対策委員会

生徒指導に関する研修

7月19日(火)	第1回	各校の現状と課題についての協議
12月9日(金)	第2回	不登校対策研究協議会 <講師> 竜ヶ崎市教育委員会学校教育相談員 齊藤 勝 先生
2月16日(木)	第3回	本年度のまとめと次年度への課題

9 就学指導委員会

障害のある児童・生徒の早期発見と適正な就学, 指導についての協議, 判定

6月30日(木)	第1回	在籍児童生徒の判定及び今年の活動について
10月26日(水)	第2回	未就学, 在籍児童生徒の審議と判定
11月17日(木)	第3回	未就学, 在籍児童生徒の審議と判定
1月19日(木)	第4回	未就学, 在籍児童生徒の審議と判定, 平成24年度の就学予定の確認

研修等に関すること

10 教育相談研修講座

事例検討, ロールプレイによる教育相談についての基礎研修

7月27日(水)	<講師>	スクールカウンセラー 榊原 秀人 先生
----------	------	---------------------

11 コンピュータ活用研修

コンピュータの活用に関する実技研修

8月 2日(火) 会場 松ヶ丘小学校 指導要録の操作研修
プレゼンテーションソフトの利用
スクールコミュニケーションの利用

12 市人権教育研修会・市巡り研修

市人権教育に関する理解啓発のための研修，市の歴史及び施設の理解

8月 1日(月) 初任者・新規転入者への人権教育研修及び市施設等の理解

13 市初任者・新規転入者研修

初任者・新規転入者の資質向上のための研修

4月 13日(水) 守谷市の概要，学校教育について

8月 1日(月) 初任者・新規転入者への人権教育研修及び市施設等の理解

14 生き生き学校づくり研修

生徒自らが学校生活改善を目指した活動を行うことを通して，生徒の規範意識や社会性の向上を図るための研修

7月 25日(月) <講師> 江戸しぐさインストラクター 鶴見 泉 先生

その他の業務に関すること

15 保幼小中連絡協議会関係

学校種間ごとの連携

・保幼小連絡協議会 11月24日(木) 二三ヶ丘幼稚園

・小中連携教育推進事業 <中学校と学区内小学校との交流活動> 随時

16 市生徒指導連絡協議会及び市豊かな心育成推進協議会

生徒指導及び豊かな心育成に関する関係諸機関との連携，情報交換

6月29日(水) 総会及び警察署，県少年指導委員他関係団体との懇談

17 特別支援学級担当者・療育教室・伊奈養護学校連絡会議

障害のある幼児，児童に関する情報交換及び指導に関する協議

6月16日(木) 第1回 市，療育教室，伊奈養護学校及び各校の特別支援教育の取り組み

1月26日(木) 第2回 事例検討

平成23年度 委嘱関連事業等一覧

学校名	委嘱名等	委嘱等団体	年次	備考
大井沢小学校	公園里親事業 地域で支える学校づくり事業 マナーアップ(守谷しぐさ)推進事業	市役所 市教委 市教委	10 単年 単年	
大野小学校	公園里親事業 地域で支える学校づくり事業 いばらき子どもヘルパー事業	市役所 市教委 県社会福祉協議会	10 単年 単年	
高野小学校	公園里親事業 オリジナルティーティングプラン事業 市教育委員会・市教育研究会研究指定校	市役所 市教委 市教委・市教研	10 単年 2	
守谷小学校	公園里親事業 オリジナルティーティングプラン事業 森林愛護運動推進事業「緑の少年団」 市教育委員会・市教育研究会研究指定校	市役所 市教委 県農林水産部 市教委・市教研	10 単年 12 2	
黒内小学校	公園里親事業 愛鳥モデル指定校 小学校理科教育推進事業 市教育委員会・市教育研究会研究指定校	市役所 県南地方総合事務所 県教委 市教委・市教研	10 3 1 1	
御所ヶ丘小学校	公園里親事業 特色ある学校推進事業 小学校理科支援員配置事業	市役所 市教委 県教委	10 単年 単年	
郷州小学校	公園里親事業 小学校理科支援員配置事業	市役所 県教委	10 単年	
松前台小学校	公園里親事業 特色ある学校推進事業	市役所 市教委	10 単年	
松ヶ丘小学校	公園里親事業	市役所	10	
守谷中学校	公園里親事業 オリジナルティーティングプラン事業	市役所 市教委	10 単年	
愛宕中学校	公園里親事業 オリジナルティーティングプラン事業	市役所 市教委	10 単年	
御所ヶ丘中学校	公園里親事業 特色ある学校推進事業	市役所 市教委	10 単年	
けやき台中学校	公園里親事業 市教育委員会・市教育研究会研究指定校	市役所 市教委・市教研	10 1	

平成23年度 教育論文応募者一覧

氏名 (学校名)	論文主題	応募先	備考
岡崎 芳文 大野小学校	社会を担う一員としての意欲と能力の向上をめざして ～キャリア教育で育むべき能力を意識化したとりくみ を通して～	茨城県 教育研 究会	
吉成 行夫 斎藤みのり 梅澤真紀子 高野小学校	「できる・わかる喜びを味あい、意欲的に考え続け る児童を育てる指導法の追究」 ～学習課題の提示を工夫し、学び合いのある算数の授 業づくりを中心に～	茨城県 教育研 究会	
会沢 裕之 高野小学校	「資料活用能力を育てる社会科学習指導の在り方」 ～第5学年「水産業のさかんな静岡県」における「プ レゼンタイム」の実施とワークシート、デジタル教科 書の活用を通して～	茨城県 教育研 究会	
会沢 裕之 高野小学校	「比較・関連づけ・総合しながら再構成する力を育 てる社会科学習指導の在り方」 ～小学校第3学年「守谷市をしょうかいするガイドブ ックをつくろう」における指導の工夫を通して～	茨城県 教育研 究会	
倉岡 正英 松ヶ丘小学校	運動の楽しさや喜びを味わう体育科学習指導の在 り方 －小学校第6学年「体づくり運動」における言語活動の 充実を図る工夫を通して－	弘済会	優 良 賞
倉岡 正英 松ヶ丘小学校	仲間とかかわり運動の楽しさや喜びを味わう体育科学 習指導の在り方 －小学校第6学年「ハンドボール」における言語活動の 充実を図る工夫を通して－	茨城県 教育研 究会	
廣瀬 幹郎 宮原 佑輔 高橋 千紘 愛宕中学校	算数のよさを感じ取り数学的思考力を育てる指導の在 り方 －教えて考えさせる数学的活動を通して－	茨城県 教育研 究会	

平成23年度

守谷市の学校教育

発行 平成24年3月

発行所 守谷市教育委員会
事務局 指導室